

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>全職員で意見を出し合い基本理念を作り上げている。朝夕の勤務スタッフにて申し送り時に唱和している。基本理念を額縁に入れ事務所及び各入居者様個室に掲示している。</p>	○	基本理念にそってのケアが出来ているかの確認を勤務者全員で行える機会を1日の中に作りたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>朝・夕の引き継ぎの際に勤務者全員で唱和している。新人研修・現職者研修にて理念についての研修を受け、内容を理解したうえで日々の業務についている。</p>	○	職員全員で基本理念の内容の理解や、日々の実践の確認がとれる機会を作り、より良いケアに結びつける機会を多く作る。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>当グループホーム主体の研修などにおいて、グループホームとしてケアに関わる理念や方針などを公開したり、ボランティア活動を通して考えを広めたり、パンフレットに内容を盛り込んだりしながら地域の方々に浸透するように努力している。</p>	○	もっと広く浸透されるための方法として、建物の外に基本理念を掲示する、毎月の便りに理念を掲載し地域の方々に配布するなど目にする機会を作るような内容をさらに検討する。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>近所の子供たちが気軽に立ち寄り遊んでいく、近所の幼稚園から運動会や発表会の行事がある際に招待状が届き全員で参加するなどの交流をしている。町内を散歩する際に挨拶を交わしたり、消防訓練等は町内会長等が参加されている。</p>	○	地域住民との関わりはまだ不足と思われるため、各種イベントや町内会行事などに更に積極的に関わっていく必要がある。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会のお祭りや地域のごみ拾いなどの行事。地域内にある保育園や小学校などのイベントに可能な限り参加している。</p>	○	入居者様が作っている畑に興味を持つ方も多いため収穫の時期に収穫祭を開き招待するなどこちらからイベントの働きかけを行い交流を深めたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>ボランティア団体を結成し地域の研修に参加したり要望があった際には講義を開催したり。認知症の理解を深める活動を行っている。</p>	○	ボランティア団体としての活動がまだまだ始まったばかりのため今後地域での活動を段階を追って増やしていく必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価の意味と方法を事前に説明し、二つのユニットにわかれ各自に評価をする機会を作っているが、その後評価をもとに改善する事をふくめての具体的な取り組み内容についての検討は出来ていない。</p>	○	自分たちが行った自己評価を元に、現状を確認したうえで、客観的な外部評価の内容を把握して、改善する事を含めての取り組みを行ってきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2か月に1回定期的に開催し、御家族や入居者様、町内会の方達の意見を聞いた上でサービス向上に役立っている。</p>	○	地域の方や家族の参加がまだまだ少ないため参加して頂けるよう努めたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>様々なサービスや制度的な内容について、確認や質問など役所関係者との接点を作っている</p>	○	内容を確認し、それらに対応するようにはしているが、さらに質向上の為に、工夫・改善していく必要がある。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在制度を利用している方がいないため制度について知る機会が少なく理解が出来ていない。 各種資格取得に向けた試験勉強などで職員が個々に勉強する機会はある。</p>	○	今後増えてくる問題として、個々のスキルを上げていく必要がある。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>研修に参加し学ぶ機会をもうけている。学んできた中から会議等を通して他職員に伝えホーム内で虐待を見過ごすことがないよう努めている。 身体拘束廃止委員会にて2か月に1回事故報告やヒヤリハットを確認し検討する機会を設けている。</p>	○	拘束・抑制に対する、しっかりとした認識を持ち、質の高いケアを目指していかなければならない。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約を結ぶ際には、ご本人の様子や、御家族の心情や体調などにも配慮した上で、不安を極力取り除く事が出来るように、細かく連絡を取って調整している。 それぞれの御家族様に合わせた対応を職員全員で心掛けている。</p>	○	それぞれの御家族様への対応方等も含め、職員全員がしっかり周知された上でのサービスの提供を徹底していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	表情や言動から不安や不満を見つけ出し、都度個別にてゆっくりと話を聞くなど対応。必要があれば家族も交え話をするなど対応している。	○	ご本人様からの訴えやご家族様の思いをいつでも聞かせて頂きたいと言った内容を掲示し、利用者様・御家族様が自ら話しやすい環境を作る。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時には近況報告を、体不調時や急な通院などは、受診前・受診後に電話連絡をしている。	○	身体的・精神的な推移については、毎月モニタリングとして御家族様にお渡ししている。毎月の便りには総合的な一か月の様子をそれぞれに記載している。今後は個別担当者の欄などもつくって細やかな状況報告を行っていききたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議、面会時など職員が直接話さず中、御家族の思いを聞き出すような努力をしており、その内容はケース記録に落とし、プランやサービスに反映させている。	○	ご本人様からの訴えやご家族様の率直な思いを話しやすいような環境・シチュエーション作りを心掛け、より多くの情報を収集している。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	常に何かを決める際には、それぞれが意見を出し合ったり、全員が周知出来るような方法で意見を募っている。(個別対応やアンケート形式など) 全体会議にて業務改善案を提示したり、もっと小単位でユニット会議などから個別意見が出されることもある。	○	個別対応やアンケートなどで、それぞれの考えや状況を理解するように努めているが、今後は、もっとしっかり個別意見を傾聴し、納得いくまで話を進める事が大切だと考えている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じては、病院通院付き添いをする場合など、シフトを調整したりという事もある。	○	入居者様、御家族様にもそれぞれのニーズがあり、柔軟に対応できるような試みが必要と思われる。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員のケアを日ごろから行い移動や離職は最小限におさえるよう努力しており、職員離職の際に挨拶がある場合もあるが、場合によってはしっかりとした挨拶が無い事もあり「何でいなくなったの？」等の言葉も聞かれる事もある。	○	新しい職員とのしっかりとしたなじみの関係が出来てから離職者が職場を離れるような体制作りをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修に参加する機会を多く作ったり、職場内研修を職員全員が参加する形で行ったりしている。日々の業務の中で都度“なぜ”“どうして”から“どうすればよいか”までを職員のスキルに合わせ行っている。	○	職員自ら“研修を受けたい”と思って頂けるような取り組みをしていきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者レベルでは、グループホーム協議会等を通じて他GHとの接触があるが、ホーム全体としての交流の機会が少ない。	○	現在は具体的に行っていないため、今後他施設との交流の場を持ち意見交換や施設見学にてお互いの質の向上に努めたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	アンケートなどにより率直な気持ちを聞きだしたり、勤務内にて頻繁に声かけを行い、個々にモチベーションの確認を行っている。	○	勤務内では意見交換にも限りがあるため、親睦会などを行い勤務外でゆっくりと本音を話し合える場を作っていきたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	OJTチェックシートを活用し職員の“得意”“不得意”を確認したり、資格取得の際には勉強会を開き合格への支援を行っている。	○	“不得意な分野”についての指導は行っているが“得意な分野”を伸ばすための取り組みは行えていないため今後行っていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面談にはご本人様も参加して頂き、ご本人様の参加が不可能な際は個別にお会いするといったように入居前には必ずお会いすることでお話を聞く機会を作っている。その際に、望まれていること。不安に思われていることなどをお聞きしている。	○	より親身に時間をかけて事前に信頼関係を構築していくと、よりスムーズにホームでの生活がスタートできる。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面接時には必ずお会いするため、相談受付シート等を活用しお話を聞くと共に、入居に至るまでの間、電話連絡等でもお話する機会を作り小さな事もしっかりと話し合っている。	○	更に綿密な情報収集をする事によって、入居時までにある程度の信頼関係の構築などが実現できるのではないかとと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族から聞き出した情報を元に必要な事を話し合う場を職員間で持ち、ケアプランに反映、そのプランにそってケアを始めている。	○	今以上に、事前収集し沢山の情報を聞き出し必要な情報を見極められるよう努めていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	得た情報から、自然に環境に慣れて頂くための内容を必ずプランに盛り込み、ご本人家族の同意を得た上でケアをさせて頂いている。	○	契約からサービス開始までの時期が短いため、もう少し段階的に事前に入っていけるような体制を作る必要性がある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	会話を通して私達の人生経験で足りない部分を教えていただいたりと人生の先輩としての関わりを多く持っている。出来る事はこれからも続けていけるよう、出来ない事は一緒に行っていくようなケアを行っている。	○	買物や料理や家庭菜園。共に作り、共に楽しみ、共に生活をしている感覚を大切にしている。これからも個々の願いを上手に取り入れるように心がけたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様が来所された際、ご本人様も交え一緒に過ごす時間を作り、その中で昔の思い出を聞いたり情報提供者としての家族の役割も大切にしたり、面会時や必要時の電話連絡にてケアについての相談、協力をあおいでいる。	○	毎月の便りに担当者からの欄を作り担当職員と家族とのなじみの関係を構築する。家族参加の行事を作り、日々のケアから協力していただいたりと家族様からケアに関わりやすいような状況作りを行ってきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時には家族とゆっくりと過ごす環境も必ず作り、家族同士の会話をゆっくりと楽しんでいただいたり、ご本人様が伝えられない感謝の気持ちや、想いを代弁し橋渡しをしたりと支援している。	○	ホーム行事なども、もっと御家族が参加できるようなスタイルを取る事によって、さらに御家族様との思い出を作り上げていくようなスタイルをつくりたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話連絡や手紙、面会の自由など、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	○	もっと積極的になじみの関係の方についての情報収集や支援が必要と思われる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ゆつくりと出来るお茶の時間などを通して、利用者同士の思いや悩みをお聞きし、お互いに関係を深めるように支援している。	○	悩んでいる入居者に対し話を聞く対応をすることにより、孤立せずに利用者同士が関わりあい支えあえるよう努力する。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去者やご家族に対し退去後も関係の継続は必要と感じているが、現在は行っていない。	○	退去された方、ご家族に対して、お便りをお出しし近況を把握できるように改善する。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人・御家族の希望を聞き、ケアプランを作成している。希望に沿った生活が出来るように、日々の変化に気づき、ご本人と話をしながら生活できるよう支援している。	○	職員全員が、一人一人の日々の変化に気づき、その方が希望される生活が送れるように努力する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用し、ご本人御家族の方からの情報を元に職員間で共有し、これまでの暮らしについて把握するように努めている。	○	情報が不足している部分が多いため、ご家族からの状況提供をして頂けるよう、密に連絡コンタクトを取り、入手した情報は職員間で共有する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケアプラン、チェック表を活用し、申し送りを通して職員が理解できるようにしているが把握していない職員もいる。	○	残存機能の活用を引き出せるように、申し送り、ユニット会議を利用し話し合い、職員全員が把握できるようにする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員と共に、担当スタッフ及び職員が日々ケアの中で話し合い、介護計画を作成している。月に1度ユニット会議を開催し、意見を出し合いご本人御家族の希望を取り入れ作成している。	○	ご本人御家族の要望があった場合は、追加、修正し、介護計画を作成している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月ユニット会議を開催し、ケアの変化があった場合は介護支援専門員とユニットメンバーと共に話し合い、現状に合ったケアプランを見直し作成している。	○	どのような変化が起きても対応できるように、職員間の話し合い、ご家族との話し合いを強化していく必要がある。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録にご本人、職員の言動を含め記入する事で、第3者が見ても状況が把握できるようにしている。	○	ケース記録の記入法が誤っている職員には介護支援専門員から指導が入り、良い記録が記入できるように努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人の希望に出来るだけ添えるよう、御家族と相談のもと、外出、受診を提供している。御家族の状況を踏まえ柔軟に対応できるよう支援している。	○	職員全員で、本人が希望することに対し協力し合いながら対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	入居者様の希望に添えるよう、ボランティアの活用、近隣の公園への散歩や、図書館の利用などその方の必要な社会資源の活用をしている。近隣の子供たちの訪問がある。	○	身近な社会資源の活用のために、地域住民との交流を深めていく必要がある。必要性に応じた資源の活用が出来るように情報収集する。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	千歳市内には、グループホームの会が存在しているが加入していない。他サービス事業者との連携が管理者レベルで、一般職員・ホームとしては少ない。	○	他サービス事業者との情報交換ができるように交流する機会を作りたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2か月に1度、運営推進会議を開催し、地域包括支援センターの方と情報提供している。	○	本人の意向、必要性を職員が把握し、運営推進会議に活かせるように情報収集し、地域包括支援センターからの情報が利用者に活かせるように支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週に1度、主治医である伊勢内科小児科クリニックの受診を受けている。状態に応じ、主治医と連絡を取り他病院の受診をしている。必要に応じ、希望される病院を受診している。	○	今後も受診には柔軟に、すぐさま対応していき、状況は逐次御家族様に報告するようなスタイルを継続する。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医と連携を取りながら状態に応じて診断や治療を受けられる体制をとっている。	○	必要に応じて認知症的な指導をおこなってもらえるような体制を作りたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	准看護師職員が在職しており、日常の変化には職員同士で話し合いを行っており、主治医とは、緊急性を考えながら連絡相談をに対応している。	○	緊急を要する時は、その都度相談にのって頂きその状況にあった指示を頂いている。今後はデータの管理もしっかりと統一された中で管理していきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会時に、利用者様の状態を医療スタッフから聞き、ご家族様からも情報を収集し、退院後の体勢を整え入院前の状態で生活できるよう支援している。	○	状態に応じ、入院中も生活援助のサポートし、退院後もスムーズに以前と同じ生活が出来るように支援していく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時、御家族から終末期の希望をアンケート方式で取っており、主治医に情報提供している。	○	文章で記載、口頭での説明を行い、署名捺印をして頂き保管している。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状態が悪化した場合は、緊急に職員が集まり状況にあった対応を話し合い、主治医と連携を組み互いに状況提供をしている。	○	利用者のケアと共に、職員の精神的ケアも並行して行なっていかなければいけない。終末期ケアについて職員研修等を行っていかなければならない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住む環境が変化するという事は、ご本人にとって大きな変化になるため入居の際は御家族との話し合いを行い、他施設に移る際は他施設の職員との話し合いの場を設け状況提供している。	○	退去時には、センター方式、介護計画等の情報をコピーさせて頂き、他施設の職員に資料を使用しながら説明させて頂く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーについては日々心がけ利用者と接している。声掛けや記録等反している関わりをしている時は指導している。	○	新人研修等でプライバシーについての学びをしているが、現職者にも再度、学ぶ機会を作る必要がある。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員主体ではなく、一人一人の理解度に合わせた説明を行った上で自己決定できるような声掛けを行っている。	○	利用者の思いを引き出す事が全職員が出来ないため、日々話し合いどのように引き出せるか検討している。今後は、自己決定の手段と方法を学ぶ機会をもうけたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	申し送り時にその日の予定を利用者に聞き職員で話あい、出来るだけ希望に添えるような一日を過ごせるよう支援している。	○	その日より希望の生活ができなかった時は説明を行い、後日に行うようにしているが、必ず思いを実行できるように調節する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	2か月に1度、理容訪問があり希望を取り入れながら散髪している。なじみの関係も出来ており、訪問理容を楽しまれている。	○	ご自分で出来る方の整髪料の購入やおしゃれ、身だしなみは出来ているが、ご自分で出来ない方への気遣いがなされていない時があるため、おしゃれ、身だしなみの重要性を今後指導していく必要がある。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや片付けなどは行えているが、調理はあまり行っていない。自発的に参加される方、IADLに合わせ職員から声をかけ参加して頂き職員を交え楽しまれながら行っている。	○	調理に参加される利用者が少ないため、今後は食を楽しむためにどのようにしていくか職員で話し合い、一人一人に合った役割を見つけ出す。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者と一緒に買い物に行き、好みのものを自分で選び購入し自己管理できる方は居室に管理している。タバコを吸われていた利用者が安心して喫煙できるよう環境を整える。	○	全てがその方の個性や嗜好であるが、健康管理と並行して行っていく必要がある。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行う事でおむつ、パットの使用を極力軽減し、かつ安心、快適に過ごせるよう支援している。	○	排泄パターンはその日の体調や飲水量などにより異なるため、日々体調管理を行い汚染が少なくなるよう支援していく。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の希望に応じて、いつでも入浴できるよう準備をしている。希望決定できない方は体調、その方の一日の流れを把握し声掛けを行っている。入浴間隔などは規定なく、好きな方は毎日入浴されている。	○	職員が一人勤務時(夜勤帯)は、安全面から入浴を行っていないが、その時間以外は安心・安楽した入浴ができるよう提供した。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	室内の温度調節や光の調節を行う事で安心して生活できるよう環境整備を行っている。ご自分で寝具調整できない方は、巡回時体温確認を行い寝具の調節を行っている。	○	その方に合った体位交換が出来ていない時があるため、安楽な休息がとれていない事があるので、今後指導を行っていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事や洗濯、掃除などその方の役割が定着してきている。役割を自分で探せない利用者は、職員と共に生活習慣を元に探し出している。行きたい場所、好きな場所にドライブに行き気分転換を行っている。	○	一人一人の役割や、楽しみを一日の流れにうまく組み込む事が出来ない時もあるので、職員間の連携や情報収集の仕方を見直す必要がある。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の自己管理している方もいたが、「なくなった」など物取られ妄想が出てきたため御家族と話し合いホーム管理に切り替わった。買い物の際の支払いは、職員中心になっている。	○	個人の支払いについては、IADLの把握を行い出来る方には金銭管理の大切さを知って頂けるように、職員がもう一度金銭について学ぶ必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望に応じてスタッフと一緒に、散歩、買物、畑作業・外出など行っている。職員側からも状況に合わせて声掛けを行っている。	○	その方の背景や生い立ちに合わせて、なじみの場所へ個別対応で外出したりした中で、もっと奥深い部分まで「思い」を引き出せるような場面として活用したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	定期的に計画を立てて外出している。それ以外にも個別対応で少数グループに分けて外出を企画したり、ご家族との外出は本人、または御家族の希望がある時に外出されている。	○	御家族を含めた外出イベントなどを企画して、ご家族様・ご利用者様共に良い時間が持てるように援助していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて、手紙の交換や電話のやり取りが自由にできるように支援している。その際、単純に職員が「手紙」を出すためにお預かりするのではなく、共に郵便局へ行って「手紙を出す」事を実感できるような支援を心がけている。	○	現在は「手紙」がお好きな方に限定されているが、今後は大切な御家族への「絵手紙」作り・など、レクリエーションの一部として取り入れていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	御家族やご友人が来所されている場合は、お茶やお食事を一緒にして頂いたり、ホールで皆と賑やかに過ごしたり、あるいは居室で家族水入らずで過ごされたり・・・とその時々に合わせて環境を提供している。	○	いつでも遊びに来やすい雰囲気や環境を整え、ご家族との団らんの時間を大切に支援していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止推進委員会を開催しており、二か月に一度、事故報告書を元に事故内容の再確認や検討などを行い改善に取り組んでいる。職員それぞれが「身体拘束廃止の研修」にも積極的に参加しており、多くの事例を学べる機会を作っている。	○	現在も社内間で研修やミーティングなどで、身体拘束の問題については何度も学習し、介護職員としてどうあるべきか・・・という事について確認しているが、今後も繰り返し学習する中ですべての職員(新入職員)に常に浸透する状態であるようにしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日勤帯は、入居者様の希望を尊重して玄関錠などは掛けていない。入居者様は職員と共に、自由に散歩に出られたり、ウッドデッキで日光浴や洗濯物を干したり、喫煙したりと自由に過ごさせている。ただし、夜間早朝の勤務職員が手薄になる時間帯には防犯上の理由から施錠をさせて頂いている。	○	これからも入居者様の個性や希望を尊重して、施錠しないケアの継続に努めたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間で連携を取り、ホールを離れる際には相互に声掛けなどをして、死角を作らないようにし、職員間で安全が確保できるように、所在を確認出来るようにしている。夜間は基本的には二時間おきだが、状況に合わせて見守りを増やし安心できるように努めている。	○	日勤・夜勤共に状況や体調をしっかりと申し送りした上で、職員間の情報を共有し、それらをベースとしてしっかり重点項目を見極めながら見守りさせて頂いている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物やライターなど危険性のあるものに関しては、ご本人やご家族の承諾を得た上で事務所にて保管させて頂き、必要に応じて手渡しさせて頂いている。	○	ご利用者様の残存機能の活用や、趣味を楽しむためにも、お渡ししながらも安全を確保した上で、見守りさせて頂く。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急対応マニュアル・緊急連絡網を作成して、各職員に配布している。朝の申し送り時に、そのマニュアルの中から実例を出して練習している。研修などでも学習する機会を設置している。	○	その方に合わせてた環境整備を各担当者がそれぞれ提案しあったり、ユニット会議におとす等して、入居様が安心・安全に暮らせる環境づくりを常に考えている。事故が発生した場合には、なぜ発生したのか？どうしたら防げるのか？状況をしっかりと分析した上で、事故の再発に注意を払っている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成し、各職員に配布している。それを基にして、朝の申し送り時に対応方法を実技を兼ねて練習している。救急救命普通講習についても、全職員受講している。	○	緊急時の対応は、繰り返し練習することによって、職員全員が正しく判断が出来るように役職者が中心になって指導している。救急救命は職員全員受講しており、重ねて練習する事が必要だと思われる。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は年に二回開催しており、放火や地震など、防火管理者を中心としていくつかのシチュエーションの中で、何度も分析や検討を重ねながら計画を組み立てている。地元町内会にも文書にて協力を求めたり、回覧板にて他住民へも参加を呼び掛けたり・・・と共に防火訓練に参加することを大切に考えている。	○	今後も円滑でスムーズな非番の職員の呼集や、身体機能に合わせたスムーズな避難等を、しっかりと分析しながら練習していく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	日々の生活の中でリスクが伴ってしまう場合は、事前に御家族様に説明をさせて頂いた上で、納得したケアを提供させて頂く。	○	入居者様の身体・精神の変化やリスクに対しては来所都度、ご説明させて頂いている。場合によっては早目の連絡を心掛けている。月に一度、必ずモニタリングを送付し文書でも変化をお伝えしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調に異変が見られた場合、速やかに主治医、もしくは他科に受診をし悪化を防いでいる。状況に応じて見守りを強化し、早期発見を心掛けている。	○	バイタルや申し送りを確認し、いつもと違う数値や状態が発見された場合、リアルタイムで管理者に報告し、指示を仰ぐシステムになっている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬状況は、すべての入居者様の処方箋をひとつのファイルにして、いつでもすぐに誰がどのような薬を服薬しているか、一目でわかるシステムにしている。服薬時は、自分以外の職員に再度間違いがないか確認をしていただいた上で服薬し誤薬を防いでいる。	○	体調や状態の変化に伴って、医師の指示や服薬調整等を行って健康管理に努めている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	予防としてほぼ毎日体操を行っている。食事の工夫として毎朝牛乳の提供、ヨーグルト等を用意し、多く食べて頂いている。飲水・食事チェック表をベースにして、排便状況を確認している。排便が少ないようなら主治医の指示のもと、服薬と並行しながら管理させて頂いている。	○	自然な排便が出来るように、まずは薬品に頼らず、飲水・運動・食物繊維を多めに摂取・マッサージ等から対応するように心がけている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアに関しては、その方のADLにあったケアを行っている。義歯を清潔に保つためにも消毒などご自分で出来ない方には援助を行っている。	○	ADLに合わせた支援をするように心掛けている。口腔ケアが苦手な入居者様もおり、ご本人に負担が掛からないように、自然な流れの中でケアを行うようにしている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご本人の適量や、パターンをある程度理解した上で、チェック表を元に飲水・食事・服薬・睡眠等、日々確認申し送りをしあう事によって体調を常に確認している。	○	それぞれの状況を確認し、前後を含めた排便状況を確認した上で必要量に応じて飲水を勧めたり、あまり進まない場合にはお好きな飲み物や水分の多い食べ物で調整したりと工夫している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	加湿器・空気清浄機が完備されており、感染症に対するマニュアルが提示されている。玄関前には消毒剤も常備しており、外部からの来訪者にも対応している。	○	基本的な部分としては、外出から戻った際の手洗い・うがいを実施。職員自らも健康管理の徹底、状況に合わせて、対応マニュアルを元に実技を含めた再確認の必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○食材の管理</p> <p>79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>こまめに買い物にて食材を購入し、常に新鮮な物を利用している。庭に入居者様と共に家庭菜園をつくり、じゃがいも・大根・ブロッコリー・ナス・きゅうり等、新鮮な野菜を作る楽しさと共に、活用できるようにしている。</p>	○	<p>買物には、入居者様と共に、同行した上で共にメニューや食材を選ぶ楽しみを味わっている。夏場などはホーム畑でとれたての無農薬野菜を食材として利用する。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>80 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>入居者様と職員とで協力して作り上げた畑や花壇がある事で、近隣の方やご家族との会話も増え、親しみが増し、コミュニケーションのきっかけを作っている。残飯を利用して肥料を作る機械が整備されており、家庭菜園づくりにとても役立っている。</p>	○	<p>入居者様の好きな花を選んだり、四季を通して楽しめるような花壇構成を皆で計画して共に喜べるような環境を作り上げたい。</p>
<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>81 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>廊下や居間などに入居者様やスタッフの写真を飾ってある。ホールが馴染みの空間になるように、カーペットを引き、その上でトランプやゲームをして遊んだり、生活しやすい空間を取り入れている。</p>	○	<p>季節ごとに、季節感を感じられるような室内の飾り付けを入居者さまと一緒に楽しみながら作り上げていきたい。</p>
<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>82 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気の合った者同士で話をしやすい様、ひとりひとりが安心して居る場所を持っており、自然にその場所に座り楽しんでいる。好みの曲を聴いたり、囲碁を行なうなど各々で楽しむ空間を持っている。</p>	○	<p>それぞれ生活の中で役割があり、各々が協力し合って共同生活を営んでいる様子が見える。日常のかかわりの中からご本人の希望やニーズを聞きだし生活の中に入れて楽しんでいる。</p>
<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>83 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご家族と相談しながら必要に応じて、家具や備品を用意している。自宅から馴染みのあるものを持ってきて頂けるようご家族にお願いしている。</p>	○	<p>壁に家族写真やイベントの写真等、ご本人が楽しかった思い出のある馴染みの物を飾ったり、ADLに合わせた家具や備品の設置等担当者を中心に日々状況に合わせて変動している。</p>
<p>○換気・空調の配慮</p> <p>84 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>空気の入替えは状況に応じてこまめに行なっている。空気清浄機・加湿器が備え付けられていてすぐ確認できるような状態になっている。各居室に気温・湿度計が設置されており室温管理ができています。</p>	○	<p>温度調整が自分で上手く行なえない方もいらっしゃる。冬場は風邪予防のためにも、加湿や調整に努めて換気をしながら体調の保持と快適な環境作りをする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>共有スペースは入居者様の状況に応じて模様替えを行なうなど、各々が使いやすいように工夫している。ADLに応じて残存機能を保持しつつも安心・安全で過ごせるような環境作りをする。</p>	○	<p>椅子・ソファ・絨毯など、様々な生活スペースを設置して、その方の残存機能を大切にしながらも危険の無いような配置にしている。今後は、さらにその方のIADLの推移を把握した中での提供を検討して行きたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>その人それぞれの認知度に合わせた言葉掛け、誘導を行っている。出来ること。出来ない事を見分けた中で、出来る事を大切にしたいと考えている。</p>	○	<p>出来ない部分の援助をしながらも、その方の自立心や、やる気を大切にしたいと、考え共に喜び合うような共有した関係であることを職員全員が意識してほしい。</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ウッドデッキでお茶をしたり、昼食をとるなど、入居者様とスタッフが一緒に楽しめる工夫をしている。畑を作り上げ、新鮮な野菜を収穫できた事が入居者様の張り合いとなり楽しみとなっている。</p>	○	<p>自然な流れの中で、ホーム周辺で過ごす事が出来る様にし、それぞれがそれぞれの個性や楽しみを積極的に出せるような環境でいたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>ほぼ全ての利用者</u> ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ <u>たまにある</u> ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>ほぼ全ての利用者</u> ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>ほぼ全ての利用者</u> ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② <u>家族の2/3くらい</u> ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

裏には緑あふれる山があり、春は桜。秋は紅葉。冬にはエゾシカが餌を食べに来る姿を見れたり・・・と自然あふれる自由な環境のグループホームです。
 その中で、それぞれに自然を散策したり・・・と自由な時間を過ごしています。
 職員は、それぞれに介護に対する意欲も強く、目標をもちながら日々ケアの勉強に励んでいます。